

独立歩兵才五六一大隊

<p>年月日</p>	<p>概要</p>
<p>昭二〇六 一三二</p>	<p>部隊の状況 終戦前 澎湖島より、台湾新竹州竹南に移駐し、独立混成才七十五旅団防禦正面中、中地区隊と左り、竹南郡下（崎頂、竹南、斗埤坪、尖山下）に於て防禦配備に就き敵機動部隊の上陸並上陸軍の北上に備えて築城施設強化と計ると共に熾烈なる空襲下水際班滅敵斗及挺身斬込戦斗を演練す</p> <p>終戦後 終戦に伴い部隊は台中州豊原郡内埔庄に移駐、大日本月眉製糖所社有地を借用し、自活のため農耕に従事す、竹南及豊原に各一ヶ小隊の奉還軍需品警備隊を差出し、該所の警備に任ず</p> <p>編成以降部隊の行動経過の概要 軍令陸甲才三号に依り独立混成才七十五旅団臨時動員下令 澎湖島馬公に於て編成完結爾後澎湖島拱北に於て同島の防衛に任ず</p>

(446)

昭二〇 六一二  
二二 六一五  
二一 一五

復 頁  
台湾移動の蔭馬公出発し  
台湾新竹州竹南に到着、同地附近の防犯に任じ、終戦に至る

(1947)

1644

独立歩兵才五六二大隊

年月日	概 要
	<p>出 港 地 高 雄 昭和二十一年三月二十四日 上 陸 地 広島県大竹 昭和二十一年三月三十一日 復員</p> <p>部隊の状況</p> <p>終 戦 前</p> <p>澎湖島に位置し、主力を以て烏炭地区隊となり鍋管港——烏炭——隘門の防 犯に任ず、澁刺部隊長の指揮下にあり、一部を以て漁翁島地区隊長の指揮下 に入らしめ同島の防犯に任ぜしむ</p> <p>終 戦 後</p> <p>澎湖本島拱北山矢舎に全力を集結し兵舎附近に土地を求めて野菜の栽培、家 畜の飼育を行い有活業務に従事す</p> <p>十月初頭以来自給業務の他特に奉還準備に努め十一月末迄主なる奉還業務を 終了せり、尔後澎湖島出發に至る間奉還済軍需品の警戒監視に任じたり、終</p>

(448)

1645

年月日	概要
<p>三〇 三 一八</p>	<p>戦後に於ける軍紀は概ね厳正なり。給養上特別の障害なし。 馬公出港 高雄港着 携行品受検岸壁に在りて泰船を待機す 高雄発</p>
<p>三〇 一 三</p>	<p>編成当時より終戦後に於ける部隊行動経過の概要 大隊は歩兵中三〇一連隊より転居者を基幹とし、高雄州鳳山に於て編成を完結し</p>
<p>二 八</p>	<p>高雄港出発 澎湖島に上陸せり</p>
<p>九</p>	<p>澎湖島澳翁島に前進し、同島の防役に任ず、尔後馬公本島部隊の台湾本島転進に伴い</p>
<p>六 一〇</p>	<p>一部を澳翁島に残置し、主力を以て馬公本島の防衛に任ず 独立混成中七五旅団隷下にあり</p>

(447)

独立歩兵中五六一大隊

年月日	昭二〇 六
概	<p>部隊の情況</p> <p>終戦前</p> <p>澎湖島より台湾新竹州香山に移駐し、独立混成中七十五旅団防禦正面中北地区隊となり香山坑に於て防禦配備に就き疎機動部隊の上陸並上陸軍の北上に備えて築城施設強化を計ると共に熾烈なる空襲下水際雷滅敵斗及挺身斬込戦斗を演練す。</p> <p>終戦後</p> <p>終戦に伴い部隊は台中州豊原郡内埔庄に移駐大日本月眉製糖所社有地を借用し、自活の爲豊耕に従事す。</p> <p>豊原並に新竹市香山国民学校に各々一小隊の奉還兵器整備隊を差出し該所の警備に任ず。</p> <p>編成以降部隊の行動経過の概要</p> <p>軍令陸甲中三号に依り独立混成中七十五旅団臨時動員下令</p>
要	

25

(10)

1647

	<p>昭三〇 一 三〇          六 九          六 一          二 一五</p> <p>高雄州鳳山に於て縮成完結爾後澎湖島に至り大武山に於て同島の防禦に任ず          (馬公上陸 昭和三十年二月一日)          台湾移駐のため馬公出發し          新竹州香山に到着同地附近の防禦に任じ終戦に至る          内地復員</p>
--	--

(151)

1648

独立歩兵才五六四大隊

年月日	概 要
昭二〇一四 一三一	<p>部隊の編成行動の概要            軍令陸甲才三号に依り独立混成才七十五旅団臨時動員称号変更才三百十六次            撤備下令            七五旅団隷下（輿部隊）として編成完結            編 成 歩兵中隊 三ヶ中隊            M G 一ヶ中隊            I A 一ヶ中隊            I P 一ヶ小隊</p> <p>復員状況及残置部隊の概況            大隊（一中隊々）は広島似島上陸            復員完了            残置部隊 左し</p>
二一 三三 四一	

(452)

独立混成中七十五旅団工兵隊

年月日	昭二〇 一 三〇
概 要	<p>編成履歴及行動概要</p> <p>縮 成</p> <p>「軍令才三号」に依り高推州東港郡万丹にて縮成、兵力 定員 二四八名 一ヶ中隊縮成（四ヶ小隊）</p> <p>行 動</p> <p>高雄港出発</p> <p>澎湖島馬公上陸、雑母礁駐留</p> <p>双頭嶺移駐</p> <p>馬公移駐</p> <p>拱北集中</p> <p>馬公出帆高雄港</p> <p>高雄港出港内地帰還のため</p> <p>大竹港着</p> <p>復員 完 結</p>

(2.3)

1650



年月日	
概 要	<p>昭二〇 五 八 二八 陸軍軍曹 菊地哲男以下九十九名（現地召集解除）</p> <p>九 二二 陸軍少尉 本田 雅之</p> <p>一〇 一 陸軍大尉 菅 宮 文 作</p> <p>“ 曹長 佐 野 寅</p> <p>“ 現地召集解除</p> <p>二一 四 三 陸軍中尉 久村利吉以下一三〇名</p> <p>“ 疾置部隊 なし</p>

26 外

(454)

1651

独立混成才七十六旅団司令部

年月日		概要
昭二〇 一四	一三一	部隊の情況 終戦前 動員下令
一一二	一一二	終戦後
二〇	一三一	基隆市に於て接収及残務整理終了後 以降台南州新造郡菁寮に於て現地自治を實施中内地帰還を命ぜられる
二一	二五	編成当時より終戦に於ける部隊の行動経過概要 台湾基隆市に於て軍令陸甲才三号により編成完結し、爾後終戦に至る迄基隆市に於て基隆地区防犯に任ず 復員完結

(455)

1652

独立歩兵第五百六十五大隊

年月日	概	要
昭二〇一四	部隊の状況	
一三一	終戦前	
	勅諭下令	
	編成完結（台北）爾後基隆郡金山庄に於て防衞に任ず	
	終戦後	
	終戦後警備地附近に於て自活を実施しありしが南部移駐を命ぜられ	
自一九二九	台南州嘉義郡水上附近に於て自活、準備中内地帰還を命ぜられ	
一三一	編成当時より終戦後に於ける部隊の行動経過の概要	
二一〇	台湾台北市に於て軍令陸甲才三号に依り編成完結	
二一三七	終戦に到る迄 基隆郡金山庄に於て防衞に任ず	
	復員完結	

(456)

重砲兵才十三連隊

年月日	概	要
昭二八 九 五	部隊の状況	
昭二九 四 一	部隊履歴の概要	
昭二九 一 一	臨時基隆保塁守備要塞砲兵隊縮成一下令	
昭二九 一 一	縮成完結	
昭二九 一 一	基隆要塞砲兵大隊に縮成改正	
昭二九 一 一	動員下令	
昭二九 一 一	完結	
昭二九 一 一	復員下令	
昭二九 一 一	復員完結	
昭二九 一 一	基隆重砲兵大隊と改称	
昭二九 一 一	基隆重砲兵連隊と改称	
昭二九 一 一	臨時縮成下令（四ヶ中隊 高射砲一ヶ中隊）	
昭二九 一 一	縮成完結	
昭二九 一 一	基隆要塞重砲兵連隊に縮成改正防空隊と分離す	

(467)

1654

年月日	概要
昭一七 九三三	編成改正開始（ニケ中隊に縮小）
一〇一五	完結
二〇 一三一	重砲兵中十三連隊に編成改正（四ケ中隊） 終戦に至る
昭二〇 一一三一	指揮隷属関係及参加せる作戦 今次大東亞戦争にありては基隆要塞司令官の指揮下にありしも 重砲兵中十三連隊に編成改正せられ独立混成隊才七十六旅団の隷下に属す 要塞重砲として台湾警備に任ず
	終戦より帰還途の行動概要 終戦後、諸準備完了と共に連隊本部各砲台残置員一二五名を残し、自治態勢 に転移、台南州北港郡北港街大日本製糖株式会社北港農場連隊主力約二五 〇名（自十月十二日 至十一月九日）基隆炭鉱株式会社約一〇〇名台湾電 化株式会社に約五〇名（以上十月十二日）を派遣す。更に十二月八日接收 完了と同時に残置員を大日本製糖株式会社に約五〇名、基隆炭鉱株式会社に 約五〇名、 台湾電化株式会社に約二五名を派遣し爰に連隊は前記三派遣隊に転移を完了

27  
外



独立混成才七六旅団工兵隊

年月日	概 要
昭二〇 二 八 一 五	<p>部隊の状況</p> <p>終 戦 前</p> <p>基隆市に移駐完了爾後</p> <p>基隆市並に基隆郡下の防犯並に陣地構築作業に従事す</p>
二 一 一 二 二	<p>終 戦 後</p> <p>兵器被服、銃枝糧秣の集結整理返納に任ずると共に爾後台南洲新營郡後壁庄菁寮に於て現地有活に従事</p> <p>内地歸還のため基隆に移駐</p> <p>出 帆</p>
二 二 五	<p>底見島上陸す</p>
二〇 一 一 一 一 八 一 五	<p>編成以降部隊の行動及経過の概要</p> <p>当部隊は台湾彰化市に於て編成完結</p> <p>基隆市に移駐完了爾後</p> <p>近、基隆市並に基隆郡下の防犯並陣地構築作業に従事</p>

(46)

	至 自 至 自 二 一 一 八 一 一 一 一 二 一 三 二 六
	向兵隊 被服 器枚 糧秣等の集積整理返納に任ず 向台南洲新營邸後座庄普察に於て現地自活に従事 内地帰還に至る

(461)

1658



独立混成隊第三十連隊

年月日	概	要
昭二〇 一 三〇	部隊の編成行動の概要 内地又は駐屯地（朝鮮・滿州等） 等の変遷行動の概要	出発時の編成及其後の指揮隷属系統改編
二 四	台湾台南州台南市に於て編成完結 高雄州高雄市に移駐	
三 一	同日にありて休戦並防犯勤務す	
三 二	同年 日 日よりヲ十二師團長の隷下に入り引続き高雄市にありて同任 務を履行し終戦と左る	
三 三	復員状況及残置部隊の概要	
三 六	陸軍中尉 岩崎精修以下九七名 高雄港出帆	
三 一	大竹港上陸	
三 三	復員 完結す	
	主力昭和二十一年三月五日復員す 残置部隊なし	

28 外

(462)

重砲兵才十六連隊

年月日	概要
昭一六 七 一一	部隊の編成行動の概要 高雄要塞重砲兵連隊創立 連隊本四箇中隊
九 一一	臨時縮成下令
七 二七	臨時縮成完成連隊本部二箇大隊七ヶ中隊
一七 九 七	軍令陸甲才七三号に依り縮成改正下令
一〇 一五	縮成改正完結 連隊本部 四箇中隊
一九 二 一五	軍令陸甲才二〇号に依り縮成改正下令
二〇 三 一	連隊本部 五ヶ中隊
一六 七 一一	台參勳才二三九号に依り 重砲兵才十六連隊に改称今日に至る
自一九 二 一三	創立より復員迄の間 台湾軍司令官才百旅団隷下
至二〇 三 二七	才十二師団長指揮下
昭二一 三 三	復員状況 広島県大竹に於て連隊本部才一二三中隊(計三四七名) 復員完結

(463)

1660



才五十一警備大隊

年月日	概	乗
昭二〇一〇中旬	復員状況及残置部隊の概要	
二一三末	台湾高雄州旗山附近に於いて、現地自活中	
二一一三	内地帰還目的を以つて、高雄市威獅中に集中待機を命ぜらる	
二二〇	前記集中を完了	
二二〇	迄 同所に在りて舟待	
二二二	乗船のため宿營地出發、中国軍より検疫又所持品検査を受け	
自 二二二	高雄港岸倉庫に宿營	
至 二二六	乗船直ちに出發	
二二六	大竹上陸	
二二四	復員式実施 復員完結す	
二二五	残置部隊なきも	
二二二五	高雄乗船地司令部勤務中隊、要員として下士官一兵八を同司令部宛	
二二二五	獻辰せしめ	

(465)

1662



独立混成隊百二旅団司令部

年月日	概	要
昭二〇一三二二 一一二	<p>部隊状況</p> <p>終戦前</p> <p>台湾花蓮港、花蓮港、那花蓮港街に位置し、花蓮港地区及台東地区の隷下部隊を指揮し、花蓮港並に台東地区の防犯に任ず</p> <p>経戦后</p> <p>奉還武器軍需品輸送並に接收完了し、其の后主力は農耕による自活態勢確立の爲、附近部落民より水田八町畑十町歩を僅上げ、兵舎建築農具の製作野菜類の栽培視ね完了の域に達したり</p> <p>更に一部を以て地方瓦水害により破壊した道路、鉄道等の復旧工事を實施す</p> <p>基隆方面に集結のため花蓮港出發</p> <p>蘇澳——羅東——瑞芳と至て</p> <p>基隆に到着</p>	

(467)

1664

年月日	概 要
自 一 一 四 至 一 一 八	基隆市内の復旧作業に従事し 乗船す
二 一 五	縮成以降部隊の行動及経過の概要 軍令陸甲沖三号により独立混成中一〇二旅団縮成せられ、旅団司令部として熱下部隊と各地区に配備し花蓮港地区並に台東地区の防犯に任じた
二 一 一 三	役員完結

独立歩兵第四百六十五大隊

年月日	昭二〇一七
概要	<p>部隊の概況</p> <p>終戦前台湾台東県台東郡に位置し台東右地区隊として台東警備司令官の指揮を受け台東地区の防衛に任ず</p> <p>終戦後陣地附近たる知本庄部落周辺に集結し主力は農耕による自給態勢確立のため附近部落民より約二十町歩の水田の借上げ兵舎の建築と共に農具の製作物類の栽培等概ね完成の域に達しありたり</p> <p>更に一部を以て明治製糖会社台東工場高堆セメント工場等に派遣し製産増強に努むると共に他方凡水害による道路、鉄道等の復旧工事を実施す又一部を以て奉還武器軍需品の警戒並に輸送に任じたり</p> <p>基隆方面に集結のため台東出發</p> <p>花蓮港——蘇澳——羅東——瑞宝——基隆を至て内地帰還に至る</p> <p>縮成以降部隊の行動及経過の概要</p> <p>当大隊は歩兵第四十七連隊補充隊に在るの新たに歩兵第三〇五連隊を編成せられ、其の大ニ大隊として台東街の防衛に任じありしと云ふ、</p>

(269)

1666



30  
外

年月日	昭二〇二二五
概要	<p>軍令陸甲ヲ三号により独立混成ホ一ロニ旅団編成せられ、其の隷下部隊たる独立歩兵ホ四六五大隊として歩兵三ロ五連隊ホ二大隊と其の極改編せられたり。</p> <p>爾來終戦に至る迄台東警備司令官の指揮を受け右地区隊として、台東地区の防犯に任じありたり。</p> <p>復員完結</p>

(470)

1667

独立才百二旅団才二砲兵隊

年 月 日	部隊の状況
昭 二〇 二 二五	<p>概</p> <p>要</p> <p>終戦前</p> <p>台東台湾附近に於て、歩兵部隊配属となり防禦配備に付き敵上陸に備え築城施設の強化を計ると共に水際事戦闘及挺身奇襲戦闘を演練す</p> <p>終戦後</p> <p>終戦後部隊主力を台東街旭村に集結し、明治製糖会社所有地を借用して自活のため農耕に従事す</p> <p>編成以降部隊の行動経過の概要</p> <p>台湾台東に於て編成完結し台東海岸防衛に任ず</p>

(471)

1668

独立混成第百三旅団司令部

年月日	昭二〇 五 三三
概	<p>独立混成第百三旅団司令部</p> <p>縮成履歴及行動</p> <p>当部隊は比島向け輸送不能となりたるため高雄港に滞留しありたる中十丸師団（虎矢田）の一部</p> <p>（          III/75i          III/76i          II/76i          19SK(2)          5/25BA          1/19T          Hci/19D          20/DTL          72/120          80/190          2FL          ）</p> <p>を以て当初臨時独立混成第百一旅団と次で前記の如く SLi BO 2FL を除く部隊を以て独立混成第百三旅団三旅団を縮成したるものなり</p> <p>尚 9Li BO 660 に 2Fb 12D に編入せられたり</p> <p>又 192(甲) も共に高雄に表出しありたるし当初より軍直轄部隊として 42PS を縮成せり旅団は</p> <p>以降中十二師団長の指揮に入り高雄州岡山附近の警備に任ず</p> <p>中十方面軍命令に依り台北州淡水附近の防犯に任じ中十二師団長の指揮を脱し中十六師団長の指揮に入る</p>

(472)

1669

昭三一

三 一  
三 三  
三 二六  
四 三〇  
五

復員完結迄の経過

復員を命せられて以来台湾台南州新營郡に在りて部隊復活に努めありし也

内地帰還のため高雄港に集結を命せられ

同港出帆

広島県大竹港に入港

同地上陸、同日復員を完結す

復員人員 表記の如し

軍風紀及給養並に衛生

復員下令より完結迄に於ける將校以下の軍風紀は一般に厳正にして

皇軍最終の美と良く發揮す

給食は概して良好にして之を伴う部隊の犯生成績も一部の下痢患者を

除き良況に在り

其の他復員に伴う諸事亦概して円滑に完結す

(473)

1670

独立歩兵才四六八大隊

年月日	概要
昭一九一〇二六	<p>部隊終戦前後の状況</p> <p>台北州淡水街地区に在り防犯任務（陣地構築）遂行中終戦となり軍需品引継準備完了後十月初旬台南州東石郡義竹庄塩水港製糖株式会社樹林頭農場に移り自治農業に従事すると共に一部同会社の復旧に任ず</p> <p>戦死、戦病死者の遺骨恩典関係は台湾軍司令部に手続済行方不明・逃亡者なし</p> <p>編成以降部隊の行動経過の概要</p> <p>歩兵才七五聯隊才三大隊として朝鮮会軍にて編成輸送途中台湾高雄に上陸（一月九日）</p> <p>独立歩兵才四六八大隊編成完結</p> <p>延 台南州岡山地区の防犯</p> <p>以終戦後延台北州淡水街地区の防犯</p> <p>台南州東石郡義竹庄に移駐、自治農業</p>
二〇二二五	
五三一	
六一	
〇〇初旬	

3/ 外

昭二一三	出 発 高 雄 に 集 結
三 一 六	出 港 地 高 雄 商 港 來 船
三 二 二	上 陸 地 大 竹 復 員

(495)

1672

独立歩兵第469大隊

年月日	概	要
昭一九一一年六月	編成 下令縮成地 朝鮮羅南	
自一九一一年三月 至一九一一年四月	指揮隷辰系統 師団長 中将 尾崎義春 聯隊長 大佐 吉見政八郎	隷辰
自一九一一年四月 至一九一一年五月	独混旅団長 少将 田島正男 隷辰	
自一九一一年五月 至一九一一年六月	十二師団長 中将 入見秀三	
自一九一一年六月 至一九一一年九月	六十六師団長 中将 中島吉三郎 指揮	
	本部 一般中隊三 中隊一 BA 小隊一	

(476)

1673





独立歩兵才四七〇大隊

年月日	概要
昭一九一〇一六	部隊編成行動の概要 軍令陸甲才十五号に依り編成改正下令
〃	歩兵才七十六連隊等三大隊編成下令
一三〇	編成完結
一三七	羅南參勤才三十三号に依り羅南出發
一二一	釜山港出帆
一一二	門司港着
一一三	門司港出帆
二〇二一五	軍隊区分に依り軍令陸甲才二十九号に依る独立混成才百三旅団編成下令
二二五	編成完結
二二三	以降高雄州岡山郡岡山街隈底山に於て岡山附近の防犯に任じ
五二三	旅団命令により台北州淡水附近に逐次転進
六五	以降旅団命令に基き台北州淡水郡淡水街水頭地区に在りて淡水附近の防犯に任ず

昭三三三四

広島宇石港上陸

復員完結

才十二師団連絡支部輸送勤務隊十一名 高雄陸軍歩兵部

勤務隊 二十七名

勤務小隊 十七名

高雄乗船地司令部 二名

才二次輸送人員 一九八名

(479)

1676

独立混成隊百三旅団搜索隊

年月日	概	要
昭一九一三 三	部隊の縮成行動の概況	搜索隊十九連隊（隊十九師団）として朝鮮羅南出發当時の縮成左の如し
二〇 二二〇	中隊	本部乗馬隊一中隊 乗車隊三中队 自動車隊四中队（四ヶ
二〇 二二〇	比島に向け航行途中輸送不能となり	本部乗馬隊一中隊の残部乗車隊三中队 自動車隊四中队の主力を以て独立混成隊百三旅団搜索隊と縮成同旅団に隷属す
一 九	台湾安平沖に於て海没 自動車隊四中队の一小隊乗車隊二中队は捕囚	一輸送船団として比島に先発其後の状況不明
三 七	に從事	十方面軍司令官の直轄とせしめられ台北附近に在りて築城資材の輸送
七 一九	に從事	十方面軍司令官の指揮下を脱し原所居に復帰台北州七崑耶草山に在りて整備に從事

(480)

1677

八一五 終戦	復員状況及残置部隊の概況
復員状況	復員部隊及部隊長官氏名
独立混成隊百三旅団捜索隊（破竹才三一一〇五部隊）	部隊長 陸軍大尉 森 禎
復員事務主任者	副官 陸軍中尉 富 樫 孫 助
復員に關する経歴	台湾省、台南洲新營復員下令
昭三一一一	歸還のため高雄集結
昭三一五	高雄港出発
昭三二二	似、島上陸
昭三二三	復員完結（復員式）

独立混成才百三旅団通信隊

年月日	概	要
昭二〇 二一 一五	部隊の新成行動の概要 台湾に於て軍隊区分に拠り臨時独立混成才百三旅団編成下令	
二 二〇	編成完結	
二 二一	陸甲才二十九号に拠り独立混成才百三旅団通信隊編成下令	
二 二五	編成完結	
二 二三	以降才百三旅団長の指揮に入り高雄州岡小附近の防衛に任ず	
五 二三	才百三旅団命令に拠り台北州淡水附近に逐次転進す	
六 五	以降淡水附近の防衛に任ず	
同地に於て各部隊に介戻す、終戦後		
台南州新營附近に移駐自活態勢に入り一部製糖会社の復旧作業に従事す		
復員下令		
内地帰還のため高雄に集結		
高雄出発		
似ノ島上陸		

(482)

1679

三三三 復員完結

復員状況及残置部隊の概況  
一部邦人引揚の勤務員として高雄乗船地、司令部に転属 転属憲兵三  
名を加うる外、達成を保持したまま  
復員完結

(183)

1680

混成才三十三連隊

年月日	概	要
二二二	駐屯地	台湾 羅東
二二八	外地出發港灣	台湾 基隆
三一一	外地出發年月日	昭和三十一年二月二十三日
	上陸地	大竹
	上陸年月日	昭和二十一年三月一日
	部隊の編成行動の概要	
	駐屯地(基隆) 出発地混成才三十三連隊の編成、中野大尉指揮下、	
	本隊、三ヶ大隊、直轄 三ヶ中隊、野戦機関砲才五十六中隊にして	
	総数一三九五名左り	
	輸送間 歩兵才二四九連隊 才一大隊長、田辺少佐輸送指揮官となり	
	其の指揮を受く	
	基隆港出港	
	大竹港看	
	上陸完了	

(484)

1681

三

二

復員を完了せり

復員状況及残置部隊の概況

混成オ三十三連隊主力は今日の輸送により復員完結せり残余約二百五十名は基隆にありて残務整理及基隆乘船連絡支隊にて勤務中なり  
残置部隊は全員士気旺盛にして給養関係異状なく連合軍との関係も円滑にして紛争なし、残務整理者は鋭意残務整理中にして近日帰還の予定なり、乗船地連絡支隊勤務者は基隆にありて在留民選送完了迄任務執行の予定なり

(185)

1682